

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成16年度病虫害発生予報第4号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病虫害発生予報第4号（7月）

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
普通期水稻	いもち病（葉いもち）	-	少ない
	萎縮病	-	並
	縞葉枯病	-	やや多い
	ツマグロヨコバイ	並	並
	ヒメトビウンカ	やや多い	並
	セジロウンカ	並	並
	トビイロウンカ	-	並
	コブノメイガ	-	並

【普通作物 - 普通期水稻】

1 いもち病（葉いもち）

(1) 予報の内容

発生量：平年より少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病は認められなかった（前10か年の平均発病株率：0.8%、前年：0%）。

イ 気象予報では7月の平均気温は平年並か高く、降水量及び日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 補植用の置き苗は葉いもちの伝染源になりやすいので、早めに処分する。

イ 防除を実施する場合は、発生に注意し初期防除に努める。

2 萎縮病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病は認められなかった。

イ ツマグロヨコバイのイネ萎縮ウイルス保毒虫率は平年並であった（平成16年度病害虫発生予報第2号参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 萎縮病の常習発生地を除き、防除の必要はない。

イ 防除薬剤は「平成16年度普通作物病害虫防除の手引き」を参照する。
（以下の病害虫についても同様）

3 縞葉枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病は認められなかった。

イ ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は平年よりやや高かった（平成16年度病害虫発生予報第2号参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

箱施薬を実施していないほ場で、ヒメトビウンカの発生が多い場合には防除を実施する。

4 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は平均1.0頭（平年：0.2頭、前年：0.2頭）であった。

イ 気象予報では7月の平均気温は平年並か高いと予想されている。

5 ヒメトビウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は平均2.2頭（平年：0.2頭、前年：0.4頭）であった。

イ 気象予報では7月の平均気温は平年並か高いと予想されている。

6 セジロウンカ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

イ 発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月12日に予察灯並びにネットトラップで初飛来を確認し（平年：5月30日、前年：6月12日）、その後も5月13日、15日、6月3日、5日、24日、28日、29日に飛来が確認された。

イ 6月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は平均0.3頭（平年：0.7頭、前年：0.6頭）であった。

ウ 気象予報では7月の平均気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況は、病害虫防除所のホームページに掲載しているので参照する。

7 トビイロウンカ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

イ 発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月21日に二丈町の予察灯で初飛来を確認した(平年：6月15日、前年：7月4日)。

イ 6月5半旬調査の結果、本田での発生は認められなかった。

ウ 気象予報では7月の平均気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況は、病害虫防除所のホームページに掲載しているので参照する。

8 コブノメイガ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

イ 発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 予察灯及びネットトラップでは飛来を確認していない。

イ 6月5半旬調査の結果、本田での発生も認められなかった。

ウ 気象予報では7月の平均気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況は、病害虫防除所のホームページに掲載しているので参照する。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	黒点病 ミカンハダニ	並 やや多い	並 やや多い
ナシ	ナシヒメシンクイ ハダニ類	並 やや多い	並 やや多い
ブドウ	べと病	やや多い	やや多い
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	並 やや少ない 並 並	並 やや少ない 並 並
イチジク	アザミウマ類	並	並
ナシ、カキ、 カンキツ類	カメムシ類	多い	多い

【果 樹】

1 カンキツ黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病果率は0.2%（平年：0.2%、前年：0.1%）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源の枯れ枝を極力除去する。

イ 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mmを目安に降雨の合間をぬって薬剤散布を行う。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、寄生葉率は20.1%（平年：14.0%、前年：8.4%）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布をひかえ、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 ナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報の内容

発生時期：平年・前年並

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月1半旬～6月5半旬までのフェロモントラップ（県内3カ所）による誘殺虫数は、310頭（平年：311頭、前年：268頭）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2世代成虫の発蛾最盛期は平坦地域で6月6半旬、山間地域で7月1～2半旬頃と予想される。

イ 発蛾最盛期7日後を目安に防除を行う。なお、発蛾最盛期を過ぎても成虫が減少しない場合は、更に7～10日間隔で追加防除を行う。

ウ 幼虫は主に果頂部から果実に食入加害するので、防除に当たっては、果実に薬液が十分かかるように散布する。

4 ナシのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、寄生葉率は3.3%（平年：2.0%、前年：1.8%）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布をひかえ、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

5 ブドウべと病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い、前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発生葉率は1.2%（平年：0.5%、前年：1.0%）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 低温で雨が続くと多発しやすく、発病後は防除効果が低いので予防散布を徹底する。

イ 罹病葉は感染源となるので極力除去する。

ウ ボルドー液の散布は、降雨直後の雨滴や散布直後に降雨があると薬害が発生するので注意する。

6 カキ炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病枝率は0.7%（平年：1.1%、前年：0.4%）であった。

ウ 同時期の発病果率は、0%（平年：0.1%、前年：0.1%）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並が高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので除去する。

イ 発病枝の多い園では、降雨により感染が拡大するので、薬剤防除を徹底する。

ウ 樹冠内部の徒長枝に発病しやすいので、防除にあたっては薬液が樹冠内部にも十分かかるよう丁寧に散布する。

7 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、寄生果率は3.3%（平年：4.8%、前年：6.7%）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並が高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が確認される園地で6月中下旬までに防除を実施していない場合は、早急に防除を行う。

イ 防除は、ヘタの下や葉と重なった果実の表面などに薬剤がかかるよう丁寧に散布する。

8 イチジクのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 6月1半旬から5半旬までの誘引剤での誘殺虫数は、4,095頭（平年：3,220頭、前年：6,841頭）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並が高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 園地周辺の畦畔等で、6～8月に開花する雑草に発生するので除草に努める。

イ アルミ蒸着フィルム混紡ネットは、侵入が抑制されるので活用する。

9 ナシ、カキ、カンキツ等のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 6月1半旬～5半旬までの予察灯（県内6カ所）でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は、1,858頭（平年：695頭、前年：37頭）、

ツヤアオカメムシの誘殺虫数は、878頭（平年：317頭、前年：31頭）と多い。

イ また、同時期の集合フェロモントラップ（筑紫野市吉木）でのチャバネアオカメムシの誘殺虫数は、23,195頭（平年：2,887頭、前年：79頭）と多く、ツヤアオカメムシの誘殺虫数は、500頭（平年：768頭、前年：23頭）となっている。

ウ 気象予報では、7月の平均気温は平年並が高く、降水量は平年並と予想されている。

（3）防除上注意すべき事項

ア 地域によって果樹園への飛来時期が異なるため、園内をよく見回り、発生が多く被害が予想される場合は防除する。

イ 防除薬剤は、樹種によって使用できる薬剤が異なるので注意する。

ウ 果樹カメムシ類の発生状況は病害虫防除所ホームページに掲載しているので参照する。（<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>）

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病 輪斑病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	並 並 少ない 並 並 やや多い	並 並 やや少ない 並 並 やや多い

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病葉数は平均0.3葉(平年：0.4葉、前年：0.5葉)であった。

イ 7月の気象予報では、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 摘採残葉での発生に注意し、萌芽から3葉期までに薬剤防除を実施する。特に最終摘採後の芽は、来年の一番茶の母枝葉になるので防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 輪斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病葉数は0葉(平年：0.03葉、前年：0.03葉)であった。

イ 7月の気象予報では、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉や茎の傷口から病原菌が感染するため、三番茶摘採、刈り落としの当日、又は翌日に薬剤防除を実施する。

イ 輪斑病の発生園では、新梢枯死症も発生しやすいので注意する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、寄生葉率は0.9%(平年：5.0%、前年：1.5%)で、寄生虫数は0.8頭(平年：11.2頭、前年：

1.0頭)であった。

イ 7月の気象予報では、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

4 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

イ 発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、巻葉数は0.01葉(平年：0.04葉、前年：0.3葉)であった。

イ 4月1半旬～6月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。

筑後市 604頭(平年：748頭、前年：599頭)

八女市 296頭(前4か年平均：324頭、前年：407頭)

ウ 7月の気象予報では、平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2世代成虫の発蛾最盛期は平年並の7月6半旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

5 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均0.2頭(平年：0.5頭、前年：0.5頭)であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし(A4版白紙上)で4頭以上確認された場合は防除を行う。

6 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、たたき落としによる虫数は、平均7.9頭(平年：5.3頭、前年：7.1頭)であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生状況をよく観察し、たたき落とし(A4版白紙上)で10頭以上確認された場合は防除を行う。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
イチゴ (育苗床)	うどんこ病 炭疽病	やや少ない やや少ない	やや少ない やや少ない
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	やや少ない 並 並 やや多い 並	並 並 並 やや多い 並
ネギ	シロイチモジヨトウ ネギハモグリバエ	多い やや多い	やや多い やや多い

はフェロモントラップによる誘殺虫数である。

1 イチゴのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、子株での発病株率は15.4%（平年：44.1%、前年：26.4%）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本ばへの持込みを防止するため、育苗期の防除を徹底する。

イ 上位葉への感染を防ぐとともに、薬剤の付着をよくするため可能な限り下葉を除去する。

ウ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 アスパラガスの斑点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、発病株率は6.1%（平年：19.0%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 過繁茂になると多発するので、整枝を行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤防除を徹底する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

3 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、寄生株率は58.9%（平年：46.1%、前年：54.4%）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並が高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

4 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 6月2半旬～5半旬のフェロモントラップによる誘殺虫数は120頭（平年：54頭、前年：29頭）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並が高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

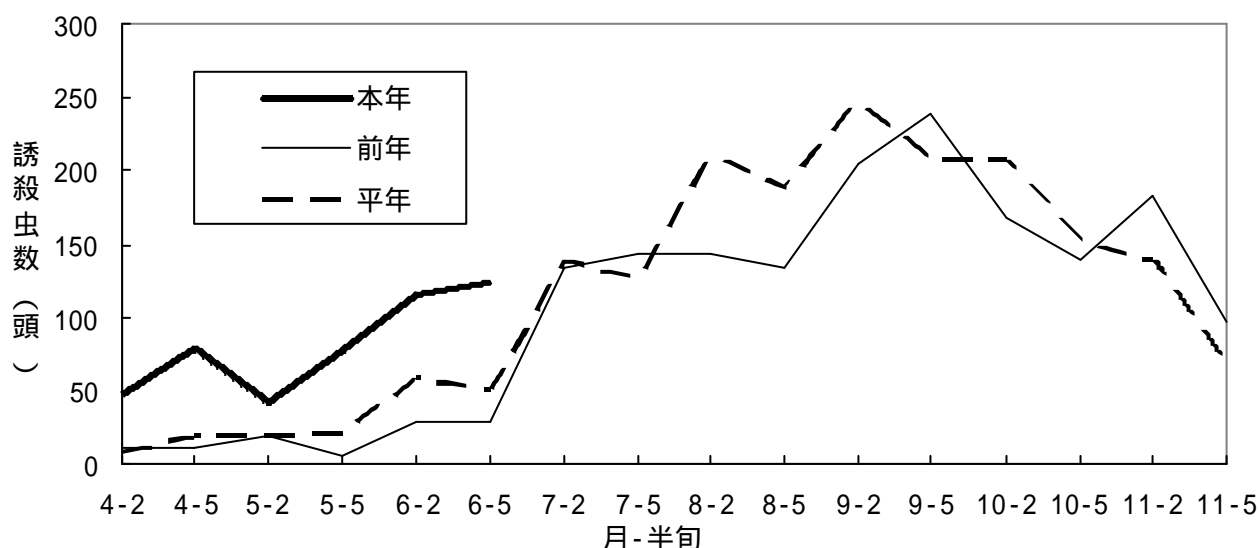
ア 誘殺虫数が平年より多く推移しているため、今後の発生動向に注意する。

イ 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

ウ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫は、葉身内に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見かけたら、直ちに除去する。

オ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺虫数の推移 (朝倉町長洲)

5 ネギのネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査の結果、寄生株率は8.6%（平年：2.3%、前年：0%）であった。

イ 気象予報では、7月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 施設栽培では、成虫飛び込み防止のため、1mm目以下の防除ネットを隙間なく張る。

7月の気象予報（1か月）

（予報期間 6月26日～7月25日）

2004年 6月25日

福岡管区気象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 6月26日～7月2日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 7月3日～7月9日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 7月10日～7月23日
この期間の平均気温は、平年並か高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
26.2	300.5	159.5	24.4	25.7	27.1

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス
電子メールアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>
kfok0301@sp.jppn.ne.jp